

北海道
道南地区農協青年部協議会
ポリシーブック 2016
～若手農業者における政策提言～



JA YOUTH

道南地区農協青年部協議会

ポリシーブック 2016

目次

1. 農業人口が減少し続けている中で、担い手として何ができるか・・・p1～4
2. 今後の青年部活動について・・・p5～8

道南地区青年部 ポリシーブック 2016

課題（題目）：農業人口が減少し続けている中で、担い手として何ができるか。

① ねらい

- ・農林業センサスを用いた北海道農業・農村の動向予測によると、10年後には農家人口は10万人を下回り、2010年時点と比較すると約半数になる見込みである。農家の減少と共に空家や遊休農地が発生し、農業が基盤産業である地域では、過疎化により生活の基盤が崩壊しかねない状況にある。このような中、我々青年部が将来に向けて何ができるのかを模索して行動する。

② 現場の現状

- ・農業者人口の減少→担い手不足、離農者の増加
- ・高齢化、人口減少による人手不足、後継者の不在
→「耕作放棄地の発生・条件悪い圃場の引き受け手がいない」
→1人当たりの経営面積が増える
- ・労働力不足、雇用者の確保が困難
→10年後パート高齢化
→10年後はそこまで変わらないが20年後はどうなっているか分からない。

③ 考え方

- ・町としても農業人口（戸数）維持は重要
→集落営農による助け合い、派遣会社の設置、通年預託
作業の効率化：若松ポークマンの取り組み(農場 HACCP)
新規就農者の受入体制の整備
- ・農業の魅力をPRし新規就農者を増やす
→儲かる話、子どもの頃からの意識改革：農村ホームステイ等による農作業体験、食農教育の実施、地産地消の推進
- ・労働力の確保
→法人化によるパートの雇用、「若手中心で仕事している」という広告による若い働き手が集まりやすい環境、雇用側（農家）の姿勢も重要（対応方法）、人の使い方を見直す（言葉使いなど）、夏期に学生をバイトとして募集（空き家をリフォームして宿舎とした→併せて家庭教師もやってもらったり…）、ハローワークに短期で労働者を募集する、大農でパート研修、派遣社員の活用（…給料高い）、畑作版ヘルパーの導入、外国人実習生の受入、花嫁対策。
- ・作業の効率化
→機械化、無人田植機（GPS）、法人化・機械の導入で省力化

④ 個人・青年部で取組むこと

- ・面積維持するため、今の内に基盤整備を行う。
- ・温室などの設備整備を行う（先進地を参考にした整備）。
- ・農村ホームステイの取り組み、食農教育の実施、地産地消の推進への協力
- ・近隣単組との交流（作物別）
- ・作物別分科会の開催
- ・各地区の先進的な作業の様子をビデオで撮影し研修会で見る
- ・経営に繋がる勉強会の開催
- ・ポリシーブックなどを有効的に活用する

【地区青協に期待すること】

- ・一般部員の声を吸い上げ、上の組織とのパイプ役となる。

⑤ J Aとして行うこと（行って頂きたいこと）

- ・行政と地域の連携を良くする。
- ・農業系大学に求人を出す。
- ・農協で花嫁対策に予算付けをして欲しい（婚活対策）。

⑥ 行政へ要請すること

- ・畜産クラスター等で予算を引っ張るための訴えかけ。
- ・最先端技術の導入に対する助成（作業の効率化）
- ・労働力確保対策として、新規就農者への支援：資金面での支援・技術面での支援。
- ・ハード面での補助政策。個人向けの基盤整備制度を作って欲しい。

⑦ その他（上記に当てはまらない事項等）

道南地区青年部協議会「ポリシープブック2016」【Plan(計画)シート(従来の実績や将来の予測などをもとにして行動計画を作成)】

地区名	道南地区
課題	農業人口が減少し続けている中で、担い手として何ができるか
着地点	担い手の確保に向け、必要な取組を行う。併せて、国に対し要請すべき事項を要請する。

※着地点欄には、2016年中に実行する上での着地点(目標・効果等)を記載して下さい

～全地区が確実に取組む事ができるポリシープブックにするために～
 ≪PDCAサイクルに基づいた5W1Hを作成する≫

※該当しない項目には「-」を入力して下さい。 ※「なぜ」はポリシープブックに記載しているのを省略

時期・いつ(When)	場所・どこで(Where)	人・誰が(Who)	物・何を(What)	なぜ(Why)	方法・どうやって(How)
適宜	適宜	全盟友	一般消費者に対する食農教育の理解促進に取り組み		農村ホームステイ事業に取り組み
適宜	適宜	全盟友	効率的な作業を行うため、各地区の先進的な作業について学習する		各地区の先進的な作業の様子をビデオで撮影し、研修会等で視聴する
適宜	適宜	全盟友	作目別の課題を共有し、今後の展望を協議する		作物別に近隣単組と交流する
適宜	適宜	地区青協	経営者としての素養を磨く		経営に繋がる勉強会の開催

時期・いつ(When)	場所・どこで(Where)	人・誰が(Who)	物・何を(What)	なぜ(Why)	方法・どうやって(How)
適宜	適宜	役員	農業に興味のある学生を現場に呼び込む		農業系大学に求人を出す
適宜	適宜	役員	婚活事業を行い、花嫁確保対策を行う		花嫁対策の予算を農協で確保する
適宜	適宜	役員	行政との良好な協力体制の構築		意見交換会等の実施

時期・いつ(When)	場所・どこで(Where)	人・誰が(Who)	物・何を(What)	なぜ(Why)	方法・どうやって(How)
適宜	適宜	市町村 振興局 農政事務所	畜産クラスター等の予算確保に向けた運動を展開する		国に対し、予算を確保するための要請活動を行う
適宜	適宜	市町村 振興局 農政事務所	ハート面での補助政策の実施		個人向けの基盤整備制度の創設
適宜	適宜	市町村 振興局 農政事務所	効率的な営農を行うために必要な支援策の実施		作業の効率化のため、最先端技術の導入に対する助成を行う
適宜	適宜	市町村 振興局 農政事務所	新規就農者への支援を行う		資金および技術面での支援を要請する。

道南地区農協青年部協議会「ポリシープブック2016」【Do(実行)・Check(検証)シート(計画に沿って実行・実行した事が計画に沿っているか又は実行に移しているか確認)】

地区名	道南地区
課題	農業人口が減少し続けている中で、担い手として何ができるか
着地点	担い手の確保に向け、必要な取組を行う。併せて、国に対し要請すべき事項を要請する。

～全地区が確実に取組む事ができるポリシープブックにするために～
 《PDCAサイクルに基づいた5W1Hを作成する》

個人・青年部で取組むこと	評価 【◎、○、△、×】	実施したこと	所感・理由・今後に向けての改善
1 食農教育の推進	△	JA今金町において農村ホームステイ事業を実施。	各車組一事例の実施を目指し、今後も農村ホームステイ事業の推進を地区として行う。
2 各種勉強会(作業効率化・共同作業等)の開催	×		ビデオ撮影は次年度、各車組に依頼し取り組む。また、視察研修の実施についても検討する。
3 "	◎	冬期部員研修会の分科会において、「稲作」、「施設作物」、「畑作・露地作物」、「酪農・畜産」の4班に分かれ、ホクレンおよび中央会(稲作のみ)と今後の販売展望や米の生産目標数量の配分方法の変更について、意見交換を行った。	今後はホクレンのみではなく、行政や中央会とも積極的に意見交換を行う。
4 "	◎	冬期部員研修会において、株式会社クラーク総研 代表取締役 前田 正秀 氏を講師に迎え、経営者の心得について講演いただいた。	今後も、盟友の求める勉強会を地区として行う。

JAとして行うこと(行って頂きたいこと)	評価 【◎、○、△、×】	実施したこと	所感・理由・今後に向けての改善
1 後継者・担い手確保対策	×		JAグループ(連合会)として出来ることを整理する。
2 "	×		"
3 "	×		行政のみではなく、ホクレンや中央会ともテーマを設定して意見交換を実施する。

行政へ要請すること	評価 【◎、○、△、×】	実施したこと	所感・理由・今後に向けての改善
1 充分な補助事業予算の確保	◎	規制改革推進会議・農業WGが公表したクミカン廃止等の意見について、生産現場の実態を十分踏まえるよう冬期部員研修会の中で特別決議をし、地元選出である前田一男・逢坂誠二の両衆議院議員事務所を訪問し、決議文を手渡した。	今後も、国に対し必要な事項の要請等の活動を地区として行う。
2 現場の実態に合った補助事業の実施	×		道南地区として、地元選出国會議員に対し、具体的な要望書を渡す。また、年1回以上、意見交換会を開催する。
3 "	×		"
4 労働力確保対策	×		人口減少に対応するため、必要な労働力の確保に対する支援を要請する。(人材派遣事業の実施など)

課題（題目）：今後の青年部活動について
<p>① ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年部活動への参加者が減少しつつあり、組織活動が弱体化している。この現状を打破し、我々青年部が組織力を発揮し続けるため、将来に向けてどのような活動を行うべきか模索する。
<p>② 現場の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部員間にモチベーションの差がある。 → 青年部活動への参加率の低下、仕事はするが閉鎖的な部員が多い、青年部の役割が十分に理解されていない
<p>③ 考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年部として人を育てる意識作りが重要。
<p>④ 個人・青年部で取組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入ってもらえるように声掛け ・ 人間関係作り、まずは身近な人から ・ 不参加者へのアプローチ継続 ・ 青年部事業に参加する「メリット」をPRする ・ 情報交換の場や新規就農者の話し合いの場を設ける ・ 作目別サークルを結成し儲かる話を協議する <p>【地区青協に期待すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率を上げる取組み ・ アンケートによる地元の意見の吸い上げ ・ 4単組が1つになれるイベントの開催（マルシェ等） ・ 儲かる話、FPやライフプランナーによる講演会の開催。 ・ 意見交換会の開催等、集まる場の提供。
<p>⑤ JAとして行うこと（行って頂きたいこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年部事業への支援（人・もの・金銭面）
<p>⑥ 行政へ要請すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記⑤と同じ
<p>⑦ その他（上記に当てはまらない事項等）</p>

道南地区青年部協議会「ポリシープック2016」【Plan(計画)シート(従来の実績や将来の予測などをもとにして行動計画を作成)】

地区名	道南地区
課題	今後の青年部活動について
着地点	盟友の求める活動を行い、青年部活動を活性化させる

※着地点には、2016年中に実行する上での着地点(目標・効果等)を記載して下さい

～全地区が確実に取り組む事ができるポリシープックにするために～
 <<PDCAサイクルに基づいた5W1Hを作成する>>

時期・いつ(When)	場所・どこで(Where)	人・誰が(Who)	物・何を(What)	なぜ(Why)	方法・どうやって(How)
適宜	適宜	単組・地区青協	青年部活動への参加者を増やす		青年部事業に参加する「フリット」をPRする
適宜	適宜	単組・地区青協	盟友同士の交流会の開催		情報交換の場や新規就農者の話し合いの場を設ける
適宜	適宜	地区青協	盟友が求める研修会を開催する		儲かる話、FPやライフプランナーによる講演会の開催
適宜	適宜	地区青協	道南地区としてのイベントを開催する		4車組が1つになれるイベントの開催(マルシェ等)
適宜					

※「なぜ」はポリシープックに記載しているのので省略

※該当しない項目には「-」を入力して下さい

時期・いつ(When)	場所・どこで(Where)	人・誰が(Who)	物・何を(What)	なぜ(Why)	方法・どうやって(How)
適宜	適宜	役員	青年部活動に対する支援を行う		人・もの・金銭面における支援

JAとして行うこと(行って頂きたいこと)	
1	青年部事業への支援
2	
3	
4	

時期・いつ(When)	場所・どこで(Where)	人・誰が(Who)	物・何を(What)	なぜ(Why)	方法・どうやって(How)
適宜	適宜	市町村 振興局 農政事務所	青年部活動に対する支援を行う		人・もの・金銭面における支援

行政へ要請すること	
1	青年部事業への支援
2	
3	

道南地区農協青年部協議会「ポリシープブック2016」【Do(実行)・Check(検証)シート(計画に沿って実行・実行した事が計画に沿っているか又は実行に移しているか確認)】

地区名	道南地区
課題	今後の青年部活動について
着地点	盟友の求める活動を行い、青年部活動を活性化させる

～全地区が確実に取組む事ができるポリシープブックにするために～
 《PDCAサイクルに基づいたSWIHを作成する》

個人・青年部で取組むこと	評価 【◎、○、△、×】	実施したこと	所感・理由・今後に向けての改善
1 青年部活動の活性化	×		冬期部員研修会等の活動をfacebook等のSNSでPRする。
2 "	○	道南地区内で、「檜山北部青年部」・「渡島北部南部・檜山南部青年部」の2ブロックに分け、別日程で盟友同士の意見交換会を行った。テーマは「地域における課題と解決策について」・「道南地区青協に求めること」の2つを設定し、今後に向けた協議を行った。	今後も、盟友の求める勉強会を地区として行う。
3 道南地区における青年部活動の活性化	○	冬期部員研修会において、株式会社 クラーク総研 代表取締役 前田 正秀 氏を講師に迎え、経営者の心得について講演いただいた。	今後も、盟友の求める勉強会を地区として行う。
4 "	×		
5			

JAとして行うこと(行って頂きたいこと)	評価 【◎、○、△、×】	実施したこと	所感・理由・今後に向けての改善
1 青年部事業への支援	△	冬期部員研修会の分科会において、ホクレンおよび中央会を助言者として迎え、意見交換を行った。	今後は必要に応じて組合長会にも支援を求める。
2			
3			
4			

行政へ要請すること	評価 【◎、○、△、×】	実施したこと	所感・理由・今後に向けての改善
1 青年部事業への支援	×		金銭面以外の支援を要請する。(「マルシェ」の会場提供など)
2			
3			
4			